

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

エンパワメントスクール(E S)の役割を十分に果たし、人間力を向上させ、自律し自立することで社会貢献できる人材を育成する

- 学びを大切に、基礎基本の確かな学力の向上と、夢実現の発展的学力の養成。
- 規範意識・コミュニケーション力を身に付け、自己と他者を大切にできる人間育成と、生徒が安心・安全・満足できる学校。
- 自己有用感に満ち、社会貢献できる知識とスキルの習得。

2 中期的目標

- 1 成城高校がめざすE Sとしての成果をあげるための取組み
 - (1) E Sの基本である学び直し学習を着実に、発展的学力や知識習得のための取組み
 - ア 「授業力向上プロジェクト」にて「主体的・対話的で深い学び」を実現するための取組みを行う。
すべての教科で「何をどのように学び」「何ができるようになるのか」を明確に伝え授業の実践に取り組む。
*生徒向け学校教育自己診断における授業満足度令和5年度は78.3%、令和8年度に80%にする。(R3・72.9%、R4・77.4%、R5・78.3%)
 - イ ICTを活用した学びの充実(すべての普通教室でインターネットがつながる環境と、タブレットを無線でつなぐ環境の整備)
* プロジェクター、タブレット等ICT機器の活用方法を一層研究し活用を進める。
生徒満足度 90%をめざす(R3・82%、R4・82.6%、R5・80.3%)
 - * 座学でのICT活用実施者割合を令和5年度は90.8%とし令和8年度まで維持する。(R3・100%、R4・100%、R5・90.8%)
 - 2 高い規範意識を持ちコミュニケーション力を向上させ、自分と他人を大切に、安全・安心で充実した学校生活を送れる学校作り。
 - (1) 生徒が高い規範意識を持ち、充実した学校生活を送るための取組み強化。
*令和6年度保護者対象学校教育自己診断での「学校に対する満足度」の目標を80%にし、令和8年度には90%にする。
(R3・89%、R4・91.1%、R5・87.4%)
*令和6年度生徒対象学校教育自己診断で、「学校へ行くのが楽しい」の目標を80%にし、令和8年度には90%にする。
(R3・62.8%、R4・72.8%、R5・71.9%)
*総遅刻回数・欠席日数とも前年比各10%減を達成する。
(遅刻、R3・なし、R4・なし、R5・2780回 欠席、R3・なし、R4・なし、R5・5072回)
§ コロナ禍の影響で令和3・4年度の数値は比較対象とせず。
*中退率維持 ゼロをめざす。(R3・1.1%、R4・0.3%、R5・0.3%)
*令和6年度、部活動加入率全体70%を目標、1年生80%にし、令和8年度全体の加入率80%をめざす。(R3・58%、R4・57%、R5・49.1%)
 - (2) 挨拶の徹底と対人との会話力の向上をめざす。
*日常の学校生活の中で、教員から積極的な声掛けを行い、令和8年度、100%の向上をめざす。
(R4・生徒95%、保護者82.6%、R5・生徒80.8%、保護者77.0%)
 - (3) いかなるいじめも許さない・見逃さない指導と、生徒の実態に合わせた生徒指導。
ア 支援コーディネータを核とした支援委員会と、SC及び担任団を中心としたサポートチームの強化。
イ いじめアンケートを各学期に実施し、情報収集と相談しやすい環境づくり。
ウ 寄り添う心と丁寧な指導で、生徒の安全で安心な学習環境を維持する。不登校ゼロをめざす。
- 3 進路保障
 - (1) 基礎学力を身に付け、発展的学力を充実させる。
ア 授業公開3回実施。教員相互の授業見学を積極的に行い、毎回レポートを提出。
イ 「主体的・対話的で深い学び」の探求・実践・充実。
*教育産業が実施する学力診断テストを用い生徒の学力を定点観測し学力向上をはかる。評価指標であるD3の割合を全体の10%以下に、令和8年度までにする。(R3・12.4%、R4・31.8%、R5・38.7%)
 - (2) 希望進路の実現をめざし、高いモチベーションを維持するための取組み。
ア 進路指導部主導型の進路指導体制を構築し、卒業時進路未決定者0(ゼロ)の実現。
*入学当初の進路希望・夢実現に向けて、やる気にさせる取組みを実施。
*進路未決定卒業生率を令和6年度以降減少させゼロをめざす。(R3・5%、R4・8.2%、R5・2.1%)
イ 社会で役立つ資格等取得するための取り組みと、進学に向けた英語、数学、国語の進学講習の充実。
*令和6年度の資格取得者・検定試験合格者数300名を目標とし、令和8年度まで維持する。(R3・444名、R4・514名、R5・253名)
ウ 系列のさらなる充実を図り、生徒のニーズに即した仕掛けで、夢の実現を支援する。
- 4 地域に根差し見守られ、地域に貢献できる学校づくり。
 - (1) 令和7年度入学者選抜志願者確保。
ア 「チーム成城」での組織的な情報発信。
*中学校訪問150校実施を組織的に取り組み強化しそれを維持する。(R3・162校、R4・156校、R5・200校)
*学校説明会を年5回実施 参加者800名以上を目標とする。(令和4年度は生徒・保護者向け5回計669名、令和5年度は生徒・保護者向け5回計707名)
*令和6年度入試入学者の第一志望での入学者数を95%とし、令和8年度まで維持する。(R3・91.2%、R4・91.5%、R5・89%)
イ 地域に見守られ、地域とともに成長する学校づくり。
*文化祭・体育祭に合わせて1000名以上の来場者を維持する。(R3・60名、R4・578名、R5・503名)
- 5 組織の活性化と人材育成。
 - (1) 初任者を含む経験の少ない教員のスキルアップを図る校内研修を充実させる。
*相互の授業見学を積極的に行い、良好な人間関係と授業力向上をめざす。
 - (2) コンプライアンス意識の向上職務の効率化の取組み。
 - (3) 危機管理体制及び保健・安全・衛生管理の徹底。
 - (4) 職務の効率化の取組み。 *年間時間外勤務 → 400h以内

<p>切に し 安 全 ・ 安 心 で 充 実 し た 学 校 生 活 が 送 れ る 学 校 作 り</p>	<p>(3) いかなるいじめも許さない・見逃さない指導と、人権教育の推進を、生徒の実態に合わせた指導</p> <p>ア 支援コーディネータを核とした支援委員会と、SC及び担任団を中心としたサポートチームの強化</p> <p>イ いじめアンケートを各学期に実施し、情報収集と相談しやすい環境づくり</p> <p>ウ 人権教育の推進</p>	<p>(3)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織的対応に欠かせない情報共有のため職員会議には近々の事案・事象の報告を行う ・SC、SSW、CC、との外部人材を活用及び相互連携を図り、支援体制を充実させる。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒集会等において常に学校の姿勢を訴えていく。 ・いじめアンケートを必要に応じて随時行い情報収集に努める。(定期的には年間3回) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる教育活動を通じて、人権教育を計画的・総合的に推進する。 	<p>(3)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめが起因する不登校ゼロをめざす。[0名] <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめの未然防止の観点から生徒向け学校教育自己診断における「先生はいじめや私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」を90%以上をめざす。[79.9%] ・いじめアンケート3回実施。[3回] <p>・学校教育自己診断の項目に「人権について学ぶ機会がある」を80%以上をめざす。[79.4%]</p>	
<p>3 進 路 保 障</p>	<p>(1) 基礎学力を身に付け、発展的学力を充実させる取り組み</p> <p>ア 公開授業・研究協議を充実させた授業改善。</p> <p>イ 「主体的・対話的で深い学び」の探求・実践・充実</p> <p>(2) 希望進路の実現をめざし、高いモチベーションを維持するための取組み</p> <p>ア 進路指導部主導型の進路指導体制構築</p> <p>イ 社会で役立つ資格等を取得するための取組みと、進学に向けた英語、数学、国語の進学講習の充実。</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業、公開授業、授業見学を計画的・組織的に実施。各学期に1度 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育産業が実施する学力診断テストを継続し、生徒の学力を定点観測し、生徒のモチベーションを上げるとともに、教員のスキルアップの材料とする。 <p>(2)</p> <p>ア・計画的な進路指導と、保護者懇談等を通じての情報提供を積極的に行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大学・短大進学」、「専門学校・看護医療進学」「公務員・一般就職」の3つの係に担当を明確化し、学年団への指導と進路希望別に生徒への直接指導を行う。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業時に英検3級程度の力をつけさせる。1年生は全員必須またそのための学習の機会を設ける。 ・生徒・保護者への周知・指導強化 	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断における授業満足度を80%にする。[78.3%] <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力判定指標D3の割合を全体の10%以下にする。[38.7%] <p>(2)</p> <p>ア・保護者の学校教育自己診断における「学校は将来の進路や職業について、適切な指導を行っている。」については90%以上にする。[85.5%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業時進路未決定者0(ゼロ)実現。[4名] <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2級程度2名、準2級程度15名、3級程度50名を実現。[2級0名、準2級2名、3級4名] ・資格取得者・検定試験合格者を300件以上にする。[253件] 	

府立成城高等学校

	ウ 系列のさらなる充実を図り、生徒のニーズに即した仕掛けで、夢の実現を支援する。	ウ ・大学と連携を図り「主体的・対話的で深い学び」の校内研修を実施する。2回計画	ウ ・職員研修参加率 95%を実現する。 [87.5%]	
4 地域に根差し見守られ地域に貢献できる学校づくり	(1) 令和7年度入学者選抜志願者確保 ア 「チーム成城」での組織的な情報発信 イ 地域に見守られ、地域とともに成長する学校づくり	(1) ア「チーム成城」での組織的な情報発信 ・学校訪問を維持し、本校の実践内容を広く知ってもらう。 ・学校説明会や地域における説明会への管理職を中心に組織的に取り組み、経験年数の少ない教員にも経験を積ませる。 イ ・地域の諸機関・事業所との交流・連携 ・文化祭・体育祭の地域等への呼び掛けを一層強め、内容の充実を図る。	(1) ア ・中学校訪問 150 校実施を組織的に取り組む。 [200 校] ・学校説明会で、中学2・3年生徒・保護者・中学校教員等を5回開催し、計800名の参加を集める。 [生徒・保護者向け5回 707名] ・塾経営者への学校説明会1回 ・中学校進路指導主事向け説明会1回 [塾6名、進路主事17名] ・令和6年度入試入学者の第一志望での入学者数をアンケート調査実施。95%を目標 [89%] イ ・広報活動の充実。成城ニュースを積極的に発行し、玄関前に掲示するとともに、了解の得られた地域や中学校へ掲示のお願いをする。 [95号] ・HPの充実[95更新] ・地域の祭り、自治体の催し物への積極的参加。[何3回] ・文化祭・体育祭に合わせて1000名以上の来場者を迎える。 [文化祭・体育祭503名]	
5 校内組織の活性化と人材育成	(1) 校内組織の活性化と職務の効率化の取り組み ア 初任者を含む経験の少ない教員の教師力向上。 イ コンプライアンスの意識を高め徹底する ウ 危機管理意識・防災教育や保健・安全・衛生管理意識を高め、校内体制を組み取り組む。 エ 時間外勤務を軽減させる	(1) ア ・「成城みらいプロジェクト」を充実させ、未来を見据えた人材育成と、新たな取り組みへ着手する。 ・授業見学週間の充実。 ・経験年数の少ない教員が、経験年数豊富な教員の授業見学を実施。各学期に1度 イ ・会議等において、不祥事の防止、個人情報の適正管理、職場のハラスメント防止について周知する。 ウ ・校内においてマニュアルを作成し、全教職員に周知・徹底する。 エ ・職務が勤務時間内に終わるように、効率的に取り組む。	(1) ア ・学期に1回教頭・首席が中心となり教員のスキルアップをはかる。[研修4回] ・授業観察用紙提出数目標 100枚とする。[109枚] イ ・不祥事、個人情報の漏洩、職場のハラスメントの事象を0件にする。[0件] ・万が一事象が発生した時は、直ちに管理職に報告することを周知徹底する。 ウ ・年間1回の研修を実施する。 [1回] エ ・年間を通して時間外勤務を400h以内にする。[20名] ・計画的に年次休暇・振替休暇の取得をする。	